

20世紀の
「すまい」を創った建築家
西山卯三の生涯を語る

西山卯三は、大阪・西九条の町工場に生れ、三高・京都帝大を卒業、建築計画学講座の教授(三代目)を務めた。

西山先生は3つの時代を生きた。第一期(1911年～1945年)では、住宅営団の技術官僚として住宅研究に取り組む。第二期(1945年～1974年)は、戦後復興において、京大職組初代委員長、新日本建築家集団(NAU)、民主主義科学者協会など、戦後日本の復興と民主化に取り組む。高度成長期には、香里団地や千里ニュータウンの計画、万博会場計画などに係わり、日本学術会議の委員として「国土開発に関する提言」を発表。第三期(1974年～1994年)は、大学退官後、工業再配置に対する反対運動(京都西陣)や京都市電を守る運動など、市民運動やまちづくり運動に参画。

西山卯三は、「住み方調査」を通して「食寝分離」など住生活の型＝住様式を発見し、「これからのすまい」「住み方の記」「日本のすまい」をはじめ多くの著書を残した。20世紀の「すまい」を創った建築家・西山卯三について、門下生の広原盛明先生に、西山先生が残した学問的業績や社会的な役割などについてその足跡を辿りながら縦横に語っていただきます。

令和6年
(2024年) **2月2日(金)**
18:30 開始 参加費無料

会場:アルパック 大阪事務所 大会議室
および オンライン(Zoom)開催

ひろはら もりあき
講師 **広原 盛明**氏 京都府立大学名誉教授



1938年旧満州ハルビン市生れ。
1965年、京都大学大学院工学研究科博士課程退学、西山研究室助手。
1985年、京都府立大学住居学科教授。
1992年～1998年同大学学長を務める。
2000年～2010年、龍谷大学法学部教授(都市政策)。工学博士、一級建築士、技術士(都市計画・地方計画)。

21世紀に入り、地域を取り巻く課題はより複雑化・高度化しており、単純なハードとソフトの融合というツールだけでは解決できない状況となっています。
アルパックでは、いま一度、多方面で活躍されている実践者や

研究者の方々による具体的な活動や事業から「まちづくり」を見つめ直し、再定義し、「21世紀型の持続可能なまちづくり」のあり方等について、大阪事務所横の適塾のように「教えあい、学びあう」活発な意見交換を行いたいと考えています。

申込方法 弊社HPもしくは下記URLの申込フォームより
1月26日(金)正午までにお申し込み下さい。
右のQRコードからもURLの取得が可能です。
<https://forms.gle/4wPy1LRxcBWGfNkF7>



※お申込み出来ない場合は、①氏名②電話番号③参加方法を明記の上、
rojiokusalon.arpak@gmail.com までご連絡ください。